

明治村 だより

秋号 Vol. 41

目次

- 明治村開村のころ 伊藤三千雄2
- 立体写真アレコレ4
- 明治村グラフィティ6
- 明治の家具 芝川邸で使用された家具8
- 秋の明治村—催しものご案内10
- A La Meiji-mura11



- 5JH 51番地～67番地**
 - ① 聖ゼビエル天主堂
 - ② 金沢監獄正門
 - ③ 小瀬沙美島燈台
 - ④ 大連眼鏡橋
 - ⑤ 隅田川新大橋
 - ⑥ 大明寺聖パウロ教会堂
 - ⑦ 川崎銀行本店
 - ⑧ 皇居正門石橋飾電燈
 - ⑨ 内閣文庫
 - ⑩ 東京駅警備巡查派出所
 - ⑪ 前橋監獄雑居房
 - ⑫ 金沢監獄中央看守所-監房
 - ⑬ 宮津裁判所法廷
 - ⑭ 菊の世酒蔵
 - ⑮ 高田小瀬写真館
 - ⑯ 名鉄岩倉変電所(岩倉ホール)
 - ⑰ 帝國ホテル中央玄関(ポーツマス条約調印テール)
- 4JH 34番地～50番地**
 - ① 第四高等学校武術道場(無声室)
 - ② 日本赤十字社中央病院病棟
 - ③ 歩兵第六聯隊兵舎
 - ④ 名古屋衛成病院(敷島精製化)
 - ⑤ シアトル日系福音教会
 - ⑥ プラシル移民住宅
 - ⑦ ハワイ移民集会所
 - ⑧ 六郷川鉄橋
 - ⑨ 尾西鉄道蒸気機関車1号
 - ⑩ 蒸気機関車12号・9号・二等客車
 - ⑪ 鉄道新橋工場(機械館)リンク精紡機(重要文化財)菊花御紋章付平判盤(重要文化財)
 - ⑫ 工部省品川硝子製造所
 - ⑬ 宇治山田郵便局(重要文化財)
 - ⑭ 本郷喜之床
 - ⑮ 小泉八雲遊藝の家
 - ⑯ 呉服座(重要文化財)
 - ⑰ 半田東湯
- 3JH 24番地～33番地**
 - ① 京都市電
 - ② 北里研究所本館(医学館)
 - ③ 幸田露伴住宅「蝸牛庵」
 - ④ 西園寺公望別邸「坐論荘」
 - ⑤ 茶室「亦楽庵」
 - ⑥ 品川燈台(重要文化財)
 - ⑦ 喜島燈台(重要文化財)
 - ⑧ 長崎居留地二十五番館
 - ⑨ 神戸山手西洋人住居
 - ⑩ 宗教大学車寄
- 2JH 14番地～23番地**
 - ① 千早赤阪小学校講堂
 - ② 第四高等学校物理化学教室
 - ③ 東山製薬所(重要文化財)
 - ④ 清水医院
 - ⑤ 東松家住宅(重要文化財)
 - ⑥ 京都中井酒造
 - ⑦ 安田銀行会津支店
 - ⑧ 札幌電話交換局(重要文化財)
 - ⑨ 蒸気自動車(鉄道記念物)
 - ⑩ 京都七條巡查派出所
- 1JH 1番地～13番地**
 - ① 第八高等学校正門
 - ② 大井牛肉店
 - ③ 三重県尋常師範学校-蔵持小学校
 - ④ 近衛局本部付属倉
 - ⑤ 赤坂離宮正門哨舎
 - ⑥ 聖ヨハネ教会堂(重要文化財)
 - ⑦ 学習院長官舎
 - ⑧ 西郷従道邸(重要文化財)
 - ⑨ 森籾外夏目漱石住宅
 - ⑩ 東京官学校車寄
 - ⑪ 二重橋飾電燈
 - ⑫ 鉄道局新橋工場
 - 明治天皇召喚皇太后御料車(鉄道記念物)
 - ⑬ 三重県庁舎(重要文化財)

「明治村 だより」 第42号発行のお知らせ
 発行時期 平成17年12月(予定)
 申込方法 「明治村だより」第42号ご希望の旨及びご住所・お名前を明記の上、送料140円の切手とともに封書にてお申し込み下さい。

表紙 ポスター「屋根の飾りに刻をよむ」

平成17年9月10日発行
 「明治村だより」第41号(平成17年 秋)

発行 博物館明治村
 〒484-0000 愛知県犬山市内山一丁目
 電話 (0568) 67-0314
 ◎ホームページ <http://www.meijimura.com>

製作 大日本印刷株式会社

明治村開村のころ

伊藤三千雄

明治村の開設は、谷口吉郎先生（初代館長・当時東工大教授）の構想を名鉄の土川副社長（当時）が支持され、昭和三十五年ころから準備が始まったと聞いています。財団法人として組織化されたのは昭和三十七年ですが、名鉄の地盤と谷口先生の人脈が両輪となって、さっそく名古屋の商家や兵舎、鉄道関係の施設、明治文学ゆかりの建物の解体や部材の運搬が始まっています。

開村当時、田村剛先生（東大名誉教授・国立公園協会副会長）が理事長に就任しておられます。明治村の敷地造成や造園計画には、在来の地形や樹種を大切にすることが基本方針になっていますが、これは田村先生の指示によったものです。戦後は、パワーショベルやダンプカーなど大型の土木機械が導入されて、大規模な土地造成が可能となり、また成長の早い樹種の移植による修景が行われていました。しかし、明治村の美しい樹叢や、こぼれ陽のきらめく樹間の苑路は、田村先生の自然保護のお考えが実践されたもので、先生が残してくださった宝物です。入鹿池を望む南斜面では、美しい和風庭園を設計しておられますが、足の怪我にもかかわらず、リヤカーに乗って工事現場を指揮されていたお姿が忘れられません。

明治村はたくさんの方がたの支援があつて船出



開村の朝の明治村正門
正門は「三重県庁舎正門」、右側のチケット売り場は「名古屋衛戍病院 守衛所」

かりの清水医院、小泉八雲の避暑の家など、明治文学関係の建物が多く集まっていますが、これらは野田先生のご尽力によるものです。

明治村は園内が清潔に管理されていると好評ですが、開村当時、野田先生は率先して、入園者が捨てたゴミや煙草の吸殻を丁寧に拾い、「きれいに管理していれば、汚せないはずだ」というお考えを実践しておられ、それに倣った職員のポケットには、いつも吸殻がたまり、奥様が困ったと聞いています。正門を入った所には、野田先生が書かれた「明治村からの言葉」と題する掲示板があります。「あなたを明治村は心から歓迎いたします。ここに立たれたあなたは、すでに明治村の人であり、明治村はあなたの村です。（中略）すくすくと生い茂る木や草や、さえずる小鳥や、風や水のしずかなきらめきを、今日のあなたの伴侶として、美しい明治村の道を歩いて下さい」と記されています。戦後二十年、まだ生活は簡素な時代でしたが、互いに信じあう心、信頼に込める誠意、この開村の頃の精神は、ぜひ大切に引き継いでほしいものと思います。

明治村には多くの建物が移築されていますが、国の重要文化財に指定されているものがたくさんあります。それは優れた文化財的価値のある建物

し、その支援の輪が次々と広まってゆきましたが、その中核は谷口先生の多彩な人脈でした。多方面の方が理事、評議員として参加され、谷口館長を暖かく支援しておられました。なかでも、書家であり茶人でもあった田山方南先生、文学者の野田宇太郎先生、このお二人は常務理事として、なにかと谷口館長を補佐しておられました。

明治村の茶会は、毎年多くの参加者があつて好評ですが、これを格調高く仕切って、軌道に乗せて下さったのは田山方南先生です。また、明治村正門の最初の表札は方南先生の書です。昭和四十年三月一八日、開村当日の朝、最後の点検で全員が緊張していたとき、突然、正門付近があわただしくなりました。来賓や初日の入館者を迎える直前でしたが、看板屋が書いた表札を御覧になった

を選び、その価値を失わぬよう大切に移築保存しているからです。また移築工事中に見えられた棟札や墨書、部材や工法の調査、復原した箇所や補強した措置などを記録し、その工事報告書を順次公開しています。

明治村には開村の頃から、建築関係のことを審議する委員会が設けられています。この組織づくりは、藤岡通夫先生（理事、当時東工大教授）のご提案によるものと聞いています。歴史的建造物の保存修復に詳しい関野 克先生（二代目館長、当時東大教授）、太田博太郎先生（当時東大教授）、城戸久先生（当時名工大教授）を理事として迎え、また文化財建造物の修理工事の実務に習熟した技師が招かれています。やがて、京都の聖ヨハネ教会堂や聖ザビエル天主堂の移築が始まると、フランスで教会堂建築の歴史とその修復技術を研究して帰国された飯田喜四郎先生（現・館長、当時名大教授）が明治村の修復工事を指導されるようになります。また、精力的に明治時代の洋風建築を調査し、その技術的な研究を続けておられた村松貞次郎先生（三代目館長、当時東大教授）も参加されました。

こうした明治村の創設とその運営の舞台裏を支えたのは名古屋鉄道の事業部です。名鉄はすでに日本モンキーセンターを開設して霊長類の研究を支援するなど、沿線開発に伴う文化事業の推進を図っていました。当時の名鉄本社は名鉄百貨店ビルの上層階にあり、斎藤八郎部長が陣頭指揮されていた事業部は活気溢れるエリート集団でした。海中公園の計画など、多彩な事業が検討されてい

先生が、急遽、力強い見事な表札に書き換えて下さったのです。

ちなみに、開村当時の正門は旧三重県庁舎の正門で、名古屋衛戍病院の守衛所がチケットボックスになっていました。現在のように旧制第八高等学校の正門が明治村の正門になり、正門脇の受付事務室が整備されたのは昭和四十四年のことです。正門前の駐車場も拡張整備が繰り返されています。

戦後、野田宇太郎先生の「東京文学散歩」はベストセラーになっていました。また外食券が必要だった頃ですが、その文庫本を抱えて、熱心な上野や本郷を散策する学生たちが多く、誘われて一緒に歩いたこともありました。明治村には鷗外・漱石邸、幸田露伴の住宅（蝸牛庵）、島崎藤村ゆ

ましたが、明治村の建設には技術系の人達も、事務系の皆さんも一丸となって取組んで下さいました。これまで鉄道関係の仕事にあつてきた人達が急に移築・保存という異質な仕事を担当され、また船頭さんの多い船を操るような仕事で、さぞ大変だったと思います。

いつか、いちいち、お名前を記して伝える機会を得たく念じていますが、移築する建物の現地調査へ出発の朝、お子さんの出産で奥様を産院へ送り届け、大急ぎで名古屋駅に駆け込んできてくださったかた。元気で頑張っておられたのに、中学生と高校生のお嬢さんを残して早世されたかた。いつも叱られ役を引き受けてくださったかたもありました。土木や造園の人達は移築建築物に調和する修景に尽力されました。また、水田の跡が残る谷筋を東松邸や札幌電話交換局などが立ち並ぶ敷地に整備して下さいました。その仕事は魔法使いのように見事でした。

施工会社の現場主任さん達は、各社とも戦前に質の良い建築工事の管理を経験しているベテランでした。棟梁や親方達も戦前の厳しい徒弟制度で鍛えられた人で、優れた建築工事を経験した「腕自慢」の職人さん達でした。明治村の創設期には、まだ幸いに、こうした現場主任や職人さん達がおられたのです。突貫工事でしたが、昼休みの現場詰所からは連ドラ「おはなはん」のテーマ音楽がどかに流れていました。

いとう・みちお

（名城大学名誉教授、財団法人明治村評議員・建築委員）

キーストン・ビュー・カンパニー (Keystone View Company)

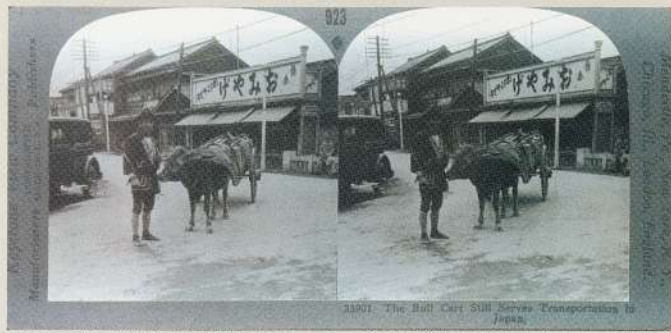
キーストン・ビュー・カンパニー（以下キーストンと表記）は先行の立体写真販売会社デーヴィスDavis で働いていたシングルリー (Singley, B.L.) によって1892年ペンシルベニア州ミードビルに設立されました。当初は一流といえる会社ではありませんでしたが、急速に進歩を遂げ、規模が大きだけでなく質的にも優れた会社となりました。日本を撮影したものも数多く、1904年にはアメリカ人カメラマンのカクラン (Cochrane, J) を日本に派遣し、撮影にあたらせました。

後にキーストンは他の会社が撤退する際、フィルムを買収し、その数はおよそ200万枚にものぼったといわれます。

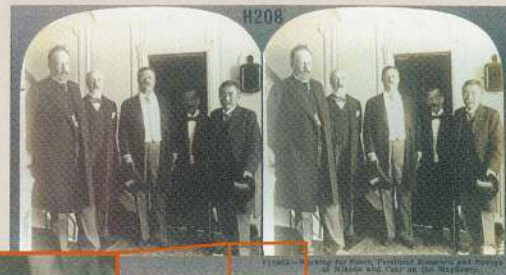
キーストンの初期のマウント（台紙）は黄褐色のカーブしたもので、後にダークグレーとなりました。



長崎の居留地と港を見下ろす（1901年頃撮影）



日本での物資輸送（撮影年不明）…古いネガを後に焼きなおしたものと考えられる



ネガ番号

V11963—Workin

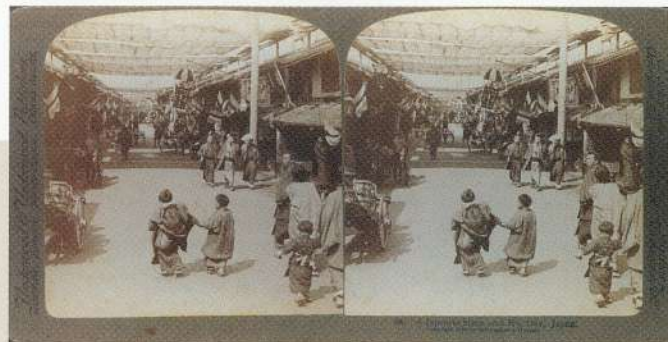
アンダーウッドから譲渡されたネガを使用した写真。ルーズヴェルト大統領と帝と皇帝の使者。1905年8月、大統領のヨット「メイフラワー号」上で。左からヴィッテ、ローゼン、ルーズヴェルト、小村寿太郎、高平小五郎。

アンダーウッド&アンダーウッド (Underwood & Underwood)

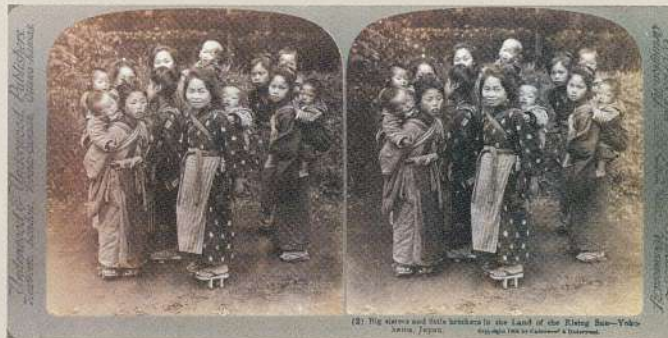
アンダーウッド&アンダーウッド社（以下アンダーウッドと表記）は1882年に、エルマとバートの兄弟によって、立体写真の販売会社として設立されました。アンダーウッドは、大学生を使った戸別訪問で注文を取る「訪問販売」で顧客を獲得していきま

した。1887年には、ジャーヴィス (Jarvis) など先行の立体写真販売会社を買収し、本社をカンザス州オタワからニューヨークに移し、さらにカナダ・ヨーロッパにも事務所を開設するまでになりました。1900年頃からは教育や宗教という特定テーマの写真セット、人気のある観光地を集めた写真セットなどの販売を開始し、1901年には1日に25,000枚の立体写真を生産するまでになりましたが、1910年頃から他事業にも手を広げ、事業の主体が立体写真からは移っていきました。

1920年には立体写真の生産を終了し、在庫と版權をキーストン・ビュー・カンパニーへ譲渡しました。譲渡されたネガはネガ番号の頭に「V」が付けられています。



炎天下の商店街…1896年頃Strohmeier&Wyman社によって撮影出版されたものの権利をアンダーウッドが購入し、後に販売したもの



年上の子どもが年下の兄弟の世話をする（1904年頃の撮影）

ホワイト (H.C.White)

19世紀末から20世紀初頭にかけて、数多くの立体写真メーカーが現れましたが、その中でも特に優れた写真を提供したのが、ホワイトです。

ホワイトは眼鏡レンズの製造メーカーとして1870年にニューヨークに事務所を開設、その後1874年にバーモント州ノースベニングトンに移り、眼鏡に加えて双眼鏡などのレンズも製造しました。

その後ホワイトは、1899年に立体写真の製造に着手し、1900年前後には自らカメラマンとして、撮影活動も行っていたようです。また、ホワイトは安定した生産ラインを確立し、品質の高い写真を提供することができるようになりましたが、1905年までに製造されたものは、写真につけられたキャプション（説明）がマウント（台紙）と同系色で読みづらい点が唯一の欠点としてあげられます。1905年以降は、金文字を刻印したキャプションなどが用いられています。

1905年ごろにはイギリス人カメラマンが日本の景色などを撮るために来日しています。

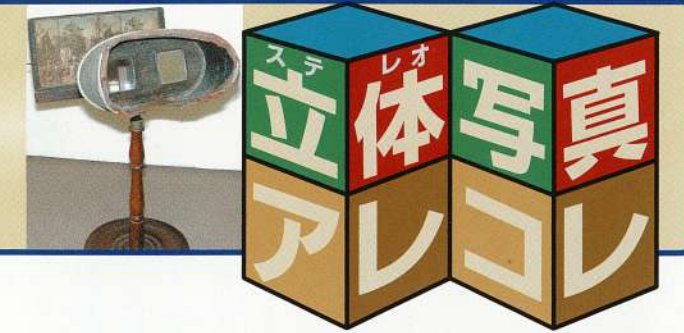
1910年以降、次第に立体写真の人気の下落するにともない、ホワイトは1915年にすべての権利をキーストン・ビュー・カンパニーに譲渡し、ホワイトはその歴史を終えました。



瀬戸内海の宮島の景色（1904年頃撮影）…1905年までに製造されたもの



宮島の鳥居と瀬戸内海（1904年頃撮影）…手彩色を施した写真で、キャプションが金文字で刻印されている。1905年以降の製造



今春、博物館明治村では沖縄在住の立体写真コレクター ラブ・オーシュリー氏のコレクションの一部を受け入れしました。今回受け入れた立体写真は611枚で、そのほとんどは1900年前後の日本を撮影したものです。今回は主な立体写真メーカーなどについてご紹介いたします。

立体写真 豆知識

立体写真の台紙がカーブしているものが多くあります。これは決して保管状況が悪く反ったのではなく、意図してカーブさせたものです。これは今回は取り上げませんが、立体写真メーカーの一つキルバーン (Kirburn, B.W.) が1885年頃開発し、多くのメーカーに採用されました。キルバーン以前の写真はもちろんカーブしていませんし、日本国内のメーカーには採用していないところもあります。



カーブしている写真。1893年シカゴコロロンブス博覧会の電気館（キルバーン）

Photographed and Published by
B. W. KILBURN, - Littleton, N. H.

キルバーンのスタンプ

カーブしていない写真。1860年6月、咸臨丸でアメリカに渡った使節団



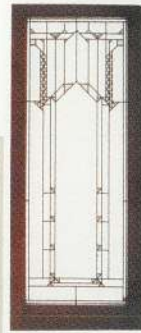
ラブ・オーシュリー氏について
(Oechsle, Rob)

オーシュリー氏は1952年アメリカ・ペンシルバニア生まれで、14歳頃から写真に興味を持ち始め、1973年に米軍の薬剤師として来日して以来沖縄に在住されています。日本の歴史や文化、特に沖縄に対して深い関心を寄せ、日本の古写真や立体写真などを精力的に収集されています。

呉服座特別公演



正門前で職員との記念撮影に応じられる礼宮殿下 (昭和60年3月)



メトロポリタン美術館から贈られたフランシス・リトル邸の窓 (帝国ホテル中央玄関に展示)



メトロポリタン美術館との資料交換
明治村から贈った帝国ホテルの解体材

メトロポリタン美術館との資料交換



「建築の巨匠フランク・ロイド・ライトと日本」ポスター



「明治のくらし展」ポスター

北里研究所本館・医学館で開催された特別展「結核との闘いの歴史展」オープニングに御臨席された秩父宮妃殿下 (昭和58年9月)

森鷗外・夏目漱石住宅の縁側に佇むライシャワー夫妻 (昭和57年10月)



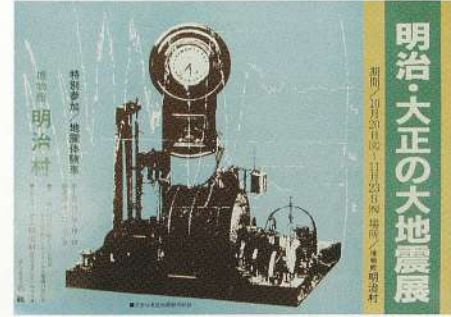
「明治の写真術と写真館」ポスター



近代洋風建築シリーズ郵便切手 (近岡善次郎画伯の水彩画による) 右「聖ヨハネ教会堂」 左「西郷従道邸」



明治村1丁目には各賞の受賞を記念した石碑が建てられている。 右：PATA Cultural Award 左：山本有三記念郷土文化賞



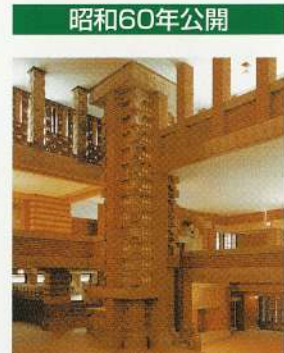
「明治・大正の大地震展」ポスター

明治村ヒストリー

- 昭和55年(1980)
 - 2月 第5回 PATA Cultural Award (太平洋観光協会文化賞) 受賞。
 - 3月 開村15周年記念式典を開催し、宗教大学車寄、本郷喜之床、半田東湯 移築公開。
 - 3月 「石川啄木展」開催。
 - 5月 中日文化賞受賞
 - 6月 入場者が2000万人となる。
 - 10月 北里研究所・医学館 移築公開し、「明治の医学展」開催。
 - 11月 開基王座決定戦第1局を「坐漁荘」で開催。
- 昭和56年(1981)
 - 4月 山本有三記念郷土文化賞受賞
 - 10月 「明治・大正の大地震展」開催。
- 昭和57年(1982)
 - 1月 近代洋風建築シリーズ郵便切手の図案に「聖ヨハネ教会堂」が採用される。
 - 3月 高田小熊写真館、赤坂離宮正門哨舎 移築公開。
 - 4月 「明治の写真術と写真館」開催。
 - 4月 土川元夫氏・谷口吉郎氏のレリーフ公開 (第四高等学校物理化学教室)
 - 9月 近代洋風建築シリーズ郵便切手の図案に「西郷従道邸」が採用される。
 - 10月 ライシャワー(元・駐日大使 夫妻来村。この年から建物内部特別公開を開始。
- 昭和58年(1983)
 - 3月 菊の世酒蔵 移築公開。
 - 9月 秩父宮勢津子妃殿下行啓。
- 昭和59年(1984)
 - 3月 「明治のくらし展」開催。
 - 3月 礼宮文仁親王(現 秋篠宮 殿下)行啓。
- 昭和60年(1985)
 - 3月 礼宮文仁親王(現 秋篠宮 殿下)行啓。
 - 「国際科学技術博覧会(つくば博)」に菊花御紋章付平削盤・横形単気筒蒸気機関を出品。
 - 4月 「明治建築をつくった人々展」開催。
 - 4月 「明治建築をつくった人々展」開催。
 - 5月 「近代女子教育の先駆者 下田歌子展」開催。
 - 10月 13日、開村20周年記念式典開催。帝国ホテル中央玄関内部公開開始。「建築の巨匠フランク・ロイド・ライトと日本展」開催。
- 昭和61年(1986)
 - 4月 「明治建築をつくった人々 その二」開催。
 - 10月 「明治の女優展」開催。呉服座特別公演を開始。
- 昭和62年(1987)
 - 4月 「明治建築をつくった人々 武田五一・人と作品」開催。
 - 10月 「漫画にみる明治」開催。
- 昭和63年(1988)
 - 1月 メトロポリタン美術館との資料の交換を行う。
 - 3月 「明治の風俗展 版画にみる文明開化」開催。
 - 4月 六郷川鉄橋 移築公開。入場者が3000万人となる。
 - 5月 「竹久夢二展」開催。
 - 8月 初めての夜間公開「首の明治村」(25日・26日)を開催。
 - 10月 ポーツマス条約調印のテーブルをレンスレア工科大学より受入。(展示公開は平成元年5月31日)
 - 「みなと横浜・名古屋・神戸 土木100年の歩み」開催。



昭和60年頃の村内案内図



昭和60年公開
帝国ホテル中央玄関 (内部)



昭和59年公開
シアトル日系福音教会



昭和58年公開
菊の世酒蔵



昭和57年公開
高田小熊写真館



赤坂離宮正門哨舎



昭和55年公開
宗教大学車寄



半田東湯



本郷喜之床



北里研究所本館・医学館

芝川邸で使用された家具



写真1 武田五一 明治5年(1872)一昭和13年(1938)

今回は、明治村で十年ぶりに移築に着手した「芝川邸」で使用された家具についてご紹介いたします。芝川邸を設計した武田五一(写真1)は広島県福山に明治五年(一八七二)生まれ、明治三十年(一八九七)東京帝国大学工科大学卒業、明治三十二年(一八九九)に同大学助教授となり、明治三十四年(一九〇二)に図案研究のためヨーロッパへ留学します。フランスのマルセイユに上陸後、パリ・ロンドン・グラスゴー・ブリュッセル・フレンツェ・ウィーンからアメリカを経由して二年余りの留学から帰国しました。その間、グラスゴーでマッキントッシュに、ウィーンでワグナーに出会い、当時ヨーロッパで流行していたアーノ・ヌーボの装飾性に惹かれたとも言われています。その後、五一は諸外国の議会議事堂や官庁建築などを視察する目的で、明治四十一年(一九〇八)に再び渡欧します。帰国後、アーノ・ヌーボやセセッションを

巧みに取り入れた作品を遺しています。その顕著な例が「芝川邸」です。芝川邸は外観は洋風ですが、内部は随所に「和」を取り入れています。

現在明治村で所蔵されています芝川邸旧蔵家具には五一がデザインしたと思われるものと、ウィーンの影響を受けたものがあります。芝川邸において五一がデザインしたと考えられるものに、肘掛椅子(写真2)、花台(写真3)、石炭箱(写真4)があります。肘掛椅子の装飾は幾何学的なもので、無駄な線を省いたシャープな印象を受けます。花台は五一の頭文字「G.T.」を圖案化

芝川邸家具の配置図



写真8 ロッキング・グチェア



写真4 石炭箱



写真2 肘掛椅子



写真7 アーム・チェア



写真3 花台



写真5 武田五一のイニシャル、G.T.をあしらったデザイン

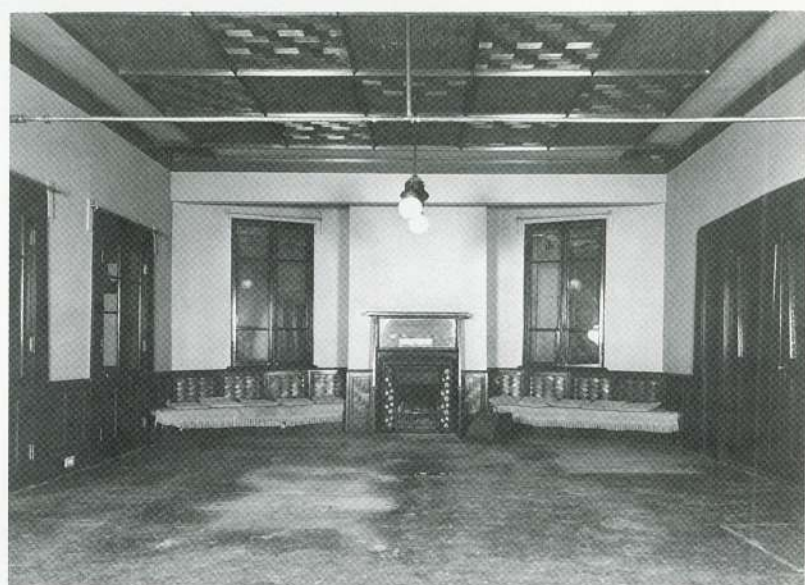


写真6 芝川邸・ホール 暖炉右脇に石炭箱があるのがわかる。

したものの(写真5)を彷彿とさせるデザインに、植物を文様化したしたものがあります。石炭箱も金具は幾何学的なデザインで、蓋は花台同様、植物文様で装飾されています。肘掛椅子は使用された場所が不明ですが、花台は1階ホールの玄関ホールよりの場所で使用された写真が残されています(※1)。また、石炭箱は1階ホールのペランダ寄りの暖炉脇で使用されたことが写真により判明しています(写真6)。

またウィーンの影響と考えられるものに、「トーネット社」で数多く生産された曲木デザインに似た家具類があります。アーム・チェア(写真7)やロッキング・チェア(写真8)・コート掛けです。これらの家具はバルコニーや玄関ホールなどで使用されています(写真9)。

治四十年頃に国産曲木家具の製作が開始され、明治四十三年には曲木家具を専門に製作する秋田曲木細工製作所(現 秋田木工株式会社)が設立されました。五一がこの製品を納めたかは現時点では不明ですが、日本の数寄屋と、アーノ・ヌーボやセセッションなどが華開いたウィーンの香りを同質なものとして、住宅建築にうまく取り込んだものといえます。



写真9 芝川邸・バルコニー(※2) ロッキング・チェア、アーム・チェアが置かれているのがわかる。

※1 「日本の眼と空間」もう一つのモダン・デザイン(セゾン美術館 1900)に掲載された写真による。
 ※2 創建当初の写真ではバルコニーにガラス戸は確認できないので、この写真は創建から数年を経てから撮影されたものと思われる。

明治村からのお知らせ

財団法人明治村が文部科学省より『特定公益増進法人』の認定を受ける

博物館明治村を運営する財団法人明治村は、文部科学大臣より平成17年6月24日付けで『特定公益増進法人』の認定を受けました。

『特定公益増進法人』は、公共法人、公益法人等のうち、教育や科学の振興、文化の向上、社会福祉への貢献等で公益の増進に著しく寄与している法人に認められるもので、所得税法施行令第217条と法人税法施行令第77条とに規定され、『特定公益増進法人』が行う主たる事業への寄附者は、個人、法人とも税法上の優遇措置を受けることができます。

『特定公益増進法人』は、法人の種類や事業によりさまざまな区分があり、財団法人明治村は第3号のカ(登録博物館の設置運営)に認定され、愛知県内に主たる法人事務所を置く財団法人が運営する博物館としては初の認定であり、また全国では12件目となります。

博物館明治村ではこれを機に、10年前の阪神大震災で半壊し、現在博物館明治村で解体保管中の『芝川邸』を復原するための寄附を広く募集します。



復原予定の芝川邸

■ 募金要項

- 募金期間 平成17年7月～復原事業終了まで
- 募金方法 1口＝1万円(口数はご随意) ※1口以上募金をいただいた方の名前を復原後の邸内に掲示いたします。
- 税制上の優遇 当財団は、文部科学省より『特定公益増進法人』の認定を受けていますので、当財団に寄附する場合は、税制上の優遇措置が得られます。
- 寄附金の送金方法など詳細は、下記までお電話又はメールでお問い合わせください。
 〒484-0000 愛知県犬山市内山1番地
 財団法人 明治村
 TEL:0568-67-0314
 FAX:0568-67-0358
 E-mail:meiji-info@nrr.meitetsu.co.jp
 (明治村ホームページのお問合せ画面からもアクセスできます)

A La Meiji-mura

明治十年代のはじめ、東京上目黒に建てられた本格的西洋館である西郷従道邸（〒110-8561）は、優雅な外観にふさわしくカーテンボックスや扉金具など内部を飾る殆どを本國から輸入されており、実はこの廻り階段も舶来品です。よく見ると手すりには切込みがあり、組み立て式の階段となっているのがわかります。

日本の住宅は平屋を旨としてきた歴史があります。江戸時代には身分の低い者が高い所に住まうのは失礼と、一般住宅の二階建ては禁止されていました。町屋では「厨子二階」と呼ばれる天井の低い二階があり、格納や簡易の寝室として使用されていましたが、そこの階段は段梯子でしかも襖に隠され、すぐには見えないようにしてありました。（村内2丁目の京都市中井酒造がその形式です。）つまり日本においては階段は決して晴れがましいものではなく、単なる通路と考えられていたのです。

しかし、この階段が表の階段、見せる階段として変化したが明治でした。西洋では古くから優雅な階段がたくさん造られており、昇降という機能だけではなくそこに芸術性を求められました。ドレスの似合うこの西郷邸の廻り階段も美しく、さらにもとも昇り降りしやすい優れた階段になっています。そして興味深いのは、西洋建築を取り入れた明治時代の日本の邸宅では、この見せるお客様用のメイン階段と使用人用のサービス階段の二つが建物内に別別して造られていたことです。使用人用の裏階段は襖や板戸で隠されて見えない工夫がしてあることが多く、ここ西郷邸にも玄関ホール裏の裏には狭くて急なもう一つの使用人用の階段があります。そうつまりこのメインの廻り階段はお客様の気分を二階へと高揚させる、華やかな表舞台の階段なのです。

洋館の廻り階段



西郷従道邸廻り階段

猫が語る台所

森鷗外・夏目漱石住宅（〒110-8561）は夏目漱石が明治三十六年から同三十九年まで借りて住んでいた家です。小説「吾輩は猫である」はこの家をモデルにしたとみられ、その中で当時の中流家庭の台所の様子が「猫」の目を通して詳しく描写されています。

「畳敷にしたら四畳敷もあろうか、その一畳を仕切って半分は流し、半分は酒屋八百屋の御用を聞く土間である。＊へつっいは貧乏勝手に似合わぬ立派な者で赤の銅壺がびかびかして、後ろは羽目板の間を二尺遺して吾輩の鮑貝の所在地である。茶の間に近き六尺は膳碗皿小鉢を入れる戸棚となつて狭き台所をいとど狭く仕切つて、横に差し出すむき出しの棚とすれすれの高さになっている。」

明治四十年でも水道の普及率はわずか八・四％。漱石の家は庭に掘られた井戸で、手桶で水を汲み水瓶にたくわえた水を使って、一段低くなった流しでかかんで、米を研いだり、野菜を洗っていたようです。台所の床の一部は揚げ板になっており、床下収納庫として燃料の炭や薪が納められ、その炭や薪を用い、御飯は竈で炊き、煮物・焼き物は七輪で調理しました。また、天窓がない住宅では煙が多く出る調理は外でしか行うことができませんでしたが、この住宅の台所には天窓が設けられており、調理作業が屋外から室内へ移行する過程といえるのではないのでしょうか。

坐式の台所作業が立式に変わっていくのは、明確ではありませんが、明治三十六年に出版されたベストセラー「食道楽」に描かれている大隈重信邸や岩崎弥之助邸の台所が大きな影響を与えたかもしれません。大隈邸の台所は板敷とセメントの土間が半々、そしてガス竈を備え、当時あまり調理用には使用されていなかったガスの利点を大きくアピールし、岩崎邸でもやはりすべて板敷で立式の清潔な台所の様子を美しい挿絵で紹介しています。

大正九年に建てられた西園寺公望別邸「坐漁荘」（〒110-8561）番地の台所は現在とはほぼ同じです。明治時代と大正時代の二つの台所を比べてみてはいかがでしょうか。



森鷗外・夏目漱石住宅台所



写真1：溪流



写真2：東京盲学校車寄と芝生

明治の「にわ」事情

明治時代には、外国人のためのホテルや住宅として洋風建築が多く建てられ、それに伴って西洋から洋風庭園の手法も導入されました。和洋を問わず、庭の表面が裸地のままということではなく、普通は植物を用いて地表を覆います。それを地被植栽といい、伝統的な純日本庭園ではコケや笹、シダ類が使われる一方、西洋では芝が使われます。コケ類などが、木漏れ日程度の弱い日光が差し込む湿気のある場所がよく育つのに対して、芝は日当たりの良い場所でないこと育たないという性質があります。そのため、芝生の周りに日光を遮る大型の樹木を植えたり、生垣や塀を造ったりすることはまずありません。日本庭園からは閉鎖的で幽玄な印象を、洋風庭園からは開放的で明るいイメージを受けますが、日本人と西洋人の庭に表現する思想の違いが、それぞれの庭園に使われる植物の種類の違いとしてもよく現れています。

明治に活躍した造園家に七代目小川治兵衛（屋号・植治）がいます。彼は明治新政府で活躍した山県有朋の別邸無鄰庵（京都）の庭園の施工にたずさわり、施主の山県の庭園観に大きな影響を受けて自然主義的な近代日本庭園の手法を確立しました。その作庭は、仏教や禅の思想を象徴的に表したこれまでの庭園とは異なり、自然の景観をそのままに表した作庭のない庭を造るというものでした。植治は、琵琶湖の水を利用した流れと明るい芝生広場を設けた無鄰庵を始めとして、他にも数多くの有力者の邸宅・別荘の造園を手がけています。西園寺公望にも引き立てられ、別邸「坐漁荘」（〒110-8561）番地の庭も植治によるものと記録されています。明治村の日本庭園は、無鄰庵と同じ手法で作られた滝と溪流を写した写実的な部分（自然主義の庭園・写真1）と、開けた芝生の平坦に園路として曲線の砂利道を設置し、あずまやとして据えた東京盲学校車寄（〒110-8561）を囲んで丸刈物を植栽するという洋式手法を用いた部分（写真2）という二つの庭園形式からなっています。

★秋の催し物ご案内★

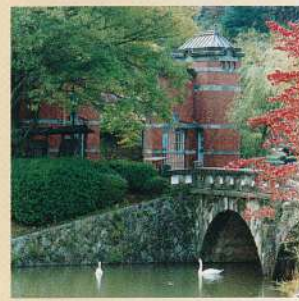
越中八尾のおわら踊り

11月5日(土)、6日(日)
 ○呉服座公演〈呉服座〉(鑑賞料700円)
 ○町流し〈帝国ホテル前〉(無料)
 ○輪踊り〈呉服座前〉(無料)
 越中八尾のおわら踊り「風の盆」が今年も明治村で再演されます。
 ＊呉服座鑑賞券は、名鉄主要駅および駅旅行センターにて発売しています。



明治村ウエディングフェア

11月20日(日)
 【帝国ホテル中央玄関・聖ザビエル天主堂・岩倉ホールほか】
 模擬結婚式 11:00～、13:30～の2回。模擬結婚式や各教会、披露宴料理・引出物の紹介などをします。(見学無料)



明治村写真コンテスト 入賞作品展

9月17日(土)～11月27日(日)【東山梨郡役所2階】
 四季折々の美しい明治村を撮影した写真コンテストの入賞作品を展示します。

重要文化財「品川燈台」特別公開

10月29日(土)、30日(日)
 11月1日の灯台記念日にちなんで、重要文化財の品川燈台を特別公開するとともに明治時代に建てられた燈台に関する展示をいたします。



※催事は都合により変更する場合がありますので、詳細については事前にお問合せ下さい。

愛知万博 百年前*体験博

開催期間2005年11月27日(日)まで

百年前の「のりもの」体験

明治天皇、昭憲皇太后御料車の内部特別公開〈鉄道局新橋工場〉

明治43年製造の明治天皇御料車（鉄道記念物）と明治35年製造の昭憲皇太后御料車（鉄道記念物）の内部を期間中特別公開します。内外装は漆塗りで、内部は彫刻・螺鈿・七宝など当時の最高水準の工芸で装飾されています。



明治天皇御料車内部

百年前の「生活」体験

百年前の「立体写真館」〈千早赤阪小学校講堂〉
 9月・10月は日露戦争をテーマにした写真を展示します。
 明治のくらしよろず体験〈三重県庁舎2階〉

百年前音楽祭

9月、10月、11月【聖ザビエル天主堂、帝国ホテル中央玄関ほか】
 芸術の秋にふさわしい素晴らしい演奏家達による百年前をキーワードにしたコンサート。

明治村見学をもっと楽しくする 各種ガイドのご紹介

建物ガイド

普段入れない建物の内部をガイド付きで特別公開いたします。(所要時間 各約15分)

【西郷従道邸・東松家住宅・西園寺公望別邸「坐漁荘」】

時間 (各所とも)
11:00 11:20
11:40 13:00
13:20 13:40
14:00 14:20

【呉服座】

時間
11:00 12:00
13:00 14:00
15:00

プレミアムガイドツアー (2日前までに要予約)

明治の貴重な建造物を、案内付きの電動車で巡る予約制のガイドツアーです。見学コースはお客様のご希望に合わせて設定いたします。所要時間は1時間30分。料金は4名様まで10,000円、5名様12,000円、6名様14,000円です。(入村別別)

ボランティアガイド

青い腕章をつけたボランティアが、ボランティアブースと京都七條巡査派出所を拠点として、各丁目の建物をガイドいたします。

● 幸田家訪問 【幸田露伴住宅「蝸牛庵」】

幸田家の人々の生活ぶりをご案内します。

● 展示機械ガイド 【鉄道寮新橋工場（機械館）】

11:30～・14:00～ (所要時間 約30分)
 蒸気ハンマーの実演や展示機械の解説を行っています。

● 予約制ガイドツアー (30名様以下は1週間前、31名様以上は1ヶ月前までに要予約)
 団体のお客様を対象にした予約制のツアーです。ボランティアガイドとともに明治村の貴重な建造物をもう一步踏み込んで見学してみませんか。所要時間は1時間～1時間30分。モデルコースもいろいろ取り揃えています。

予約 ☎(0568) 67-0314
 明治村のホームページからも予約ができます。(www.meijimura.com)